

道徳**第1学年 特別の教科 道徳 学習指導案**

令和元年11月26日（火）

1年1組 計10名

授業者

研究主題

主体的・対話的に深い学びに向かう生徒の育成
～小規模校のよさを生かした教育活動の工夫を通して～

【教科等年間指導計画 道徳 1学年 11月計画】

1 研究主題との関連

本校の研究主題「主体的・対話的に深い学びに向かう生徒の育成～小規模校のよさを生かした教育活動の工夫を通して～」に迫る手立てとして、普段の自分たちの挨拶についてたずねたり、よりよい挨拶について考えさせたりする活動を通して、挨拶の意義を深く広く理解し、よりよい挨拶を実践できるコミュニケーション力のある人間性の基礎を培う。

2 教材名（資料名） B(7)礼儀 挨拶する心『ご挨拶の勧め』出典（輝け未来 中学校道徳1年P152）**3 主題設定の理由****(1) 価値観**

学習指導要領第1章総則の第1の2(2)に示す道徳教育の目標に基づき「自立した人間として他者と共によりよく生きるための基礎となる道徳性を養う」（学習指導要領P19参照）、また、本校の道徳教育重点目標である「自分の生き方や将来についての考えを深め、自立に向け、よりよく生きようとする生徒」ならびに、第1学年の重点目標の「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し行動することができる」を育成するため、この単元では、「礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとること」を学習する。授業では、「礼儀の意義について考え、よりよい対人関係を築き上げるための言動を取ろうとする意欲を高める」をねらいとし、生徒たちの意見を取り入れながら、生徒たちの納得解を得て、今後の学校生活の充実に役立てたいと考える。

今回、上原小学校との合同授業検討会を設けており、小中連携共通実践事項の学習規律である「三秒礼」の円滑な接続についても関連させて考えたい内容である。また、生徒の今後の中学校生活や島立ちにおいても、挨拶の重要性を伝えることは非常に大切だと考える。

(2) 生徒観

第1学年は、学級の友達や教科の先生方がことが好きな親近感のある元気なクラスであり、その分、メリハリをつけることや礼節をわかまえることについては課題がある。授業においても、おしゃべりやふざけ等が日頃から見られる傾向がある。6月に実施したI・check分析でも「規範意識」の項目が低く※¹、現在の課題のひとつになっている。また、良い面では意見や質問が多く、生徒同士の交流も積極的に行えるため、アクティブな授業は展開しやすい。I・check分析では「社会参画」「思いを伝える力」「学級の絆」の項目は高く出ている。※²

「規範意識」第1学年 49.6、第2学年 59.5、第3学年 57.5 ……………※¹

「社会参画」第1学年 59.4、第2学年 56.5、第3学年 57.7

「思いを伝える力」第1学年 55.8、第2学年 48.0、第3学年 57.6 ……………※²

「学級の絆」第1学年 60.4、第2学年 55.9、第3学年 50.5

標準偏差のため、基準が 50.0 である

今回の道徳で「素晴らしい挨拶ができる」ことはこのクラスにとって長所を伸ばせる大切なものだとも考えられる。また、生徒たちは、話し合いを進めていくうちに、対立意見でも納得していける素直さがあり、良いものはすぐに実践する力があるため、今回の授業を通して、よりよい人間関係を築くための基盤となる挨拶について身につけさせたい。

(3) 資料観

本時で用いる資料『ご挨拶の勧め』は、現代あらゆる場面で人との関わりが希薄になってきていることや情報機器の発達から生身の人と言葉を交わさなくても生きていくことができることが、挨拶の大切さを失わせているのではないかということを挙げ、相手を思ったり感謝を表したりするちょっとした挨拶と声掛けが、人と人との人間関係を深めるために重要であることを考えさせてくれる内容である。

普段「立ち止まり、3 秒を意識し、しっかりと声を出し挨拶をする」ことを心がけている1年生にとっては、挨拶に加えて、もう一言声掛けをすることや感謝の気持ちを伝えることは、負荷を感じさせる可能性があるが、この道徳の授業を通して、そういう挨拶や声掛けが出来るような人になりたいと思わせたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

挨拶の意義について考え、よりよい対人関係を築き上げるための言動を取ろうとする意欲を高める。

(2) 授業の工夫

導入の場において、マインドマッピングや事前アンケート（身近な挨拶に関する内容）を取った資料を提示して、それぞれの挨拶の習慣を確認し、本時のねらいを定める。展開の場において、教科書を読み聞かせ、登場人物の気持ちから課題を主体的に捉えていく。また質問に対してグループワークをして情報共有をし、良い挨拶の方法について考えさせることをする。終末の場において、ワークシートに振り返りをし、みんなの前で発表させる。この授業以降、生徒達の様子を見ながら、声掛けや事後アンケートで地域や家族に対して自分の挨拶はどう変わったか聞いていきたい。

(3) 協議会で検討してほしいこと

挨拶は、生徒にとって、とても身近な生活習慣であり、ある程度は出来ているという感覚が定着していると思われる。この既存の挨拶について、多面的な視点で捉え、今までになかった挨拶の意義を見つけられたかどうか、また、そのための揺さぶりをかける発問が持てたかどうか、検討していただけるとありがたい。

(3) 展開

段階	学習活動	主な発問	予想される児童生徒の発言や心の動き	◆指導上の留意点 □評価
導入 (10分)	挨拶についてマインドマッピングをする アンケートから、挨拶への共通認識を促す めあてを考えさせる	<u>アンケート内容</u> ・自分の挨拶はどうか？ めあての決定 キーワード 「これから」「挨拶」	<u>反応例</u> ・3秒礼 お辞儀する 相手の目を見る 笑顔。自分から。1トーン上げ ・声が出ていない 家族に出来ていない 3秒はできていない	◆黒板にマインドマッピング ◆アンケートを見せてこれまでの生徒自身の挨拶を振り返る □積極的に意見がはいえる
展開 (30分)	教科書を読み聞かせる	<u>口頭質問</u> 挨拶はどのようなものを書いてあるか	<u>解答例</u> ・潤滑油 ・行きずりのなんという こともない言葉 ・お互いの気持ちのきしみを解かす ・優しいいたわりのようなもの	◆電子黒板で教材を掲示する
	ワークシート	<u>質問①</u> なぜ筆者は引越しの挨拶をされた日、晴れ晴れとした気持ちで過ごせたのだろうか。	<u>解答例①</u> 「たった一言ではなく、気持ちのこもった挨拶をしてくれたから」 「初対面なのに丁寧に挨拶をしてくれたから」	
	グループワーク	<u>質問②</u> 型にはまった挨拶と昨日の挨拶。 ふたつの挨拶の違いは何だろうか？それぞれの良さに着目して書いてみよう。	<u>解答例②</u> 「言葉がキレイ」 「心を込めやすい」 「相手を喜ばすことができる」	□他者の意見を積極的に聞くことができる
後段 (15分)	個人活動	<u>質問③</u> 「親子の間でもこうした日常の挨拶あった方ががいい」ということについて、気づいたことを書いてみよう。	<u>解答例③</u> 自分も素直に気持ちを伝えたいほうがよい たった一言気持ちを伝えるだけでお母さんは喜ぶと思う	□積極的に発表させる
	発表活動	<u>質問④</u> これまでに自分がかけてもらった声掛けや挨拶で、喜んだことや感動したことを思い出して書こう。	<u>解答例④</u> 地域の人に、石垣での大会頑張ってたねと言われたこと	
終末 (10分)	振り返り	<u>発問</u> 「めあて」に対してどう振り返りますか？ 振り返り時間	<u>考察</u> 「心をこめる」 「素直な気持ちを伝える」 「ひとつのこと終わらせる優しい心を持つ」 <u>これから出会うすべての人に相手が喜ぶ挨拶をしよう</u>	□ワークシートで評価する

(4) 本時の評価

自らの挨拶を振り返り、挨拶の本質を理解し、これからの自分自身のことと関係づけて考えている。

(5) 板書計画

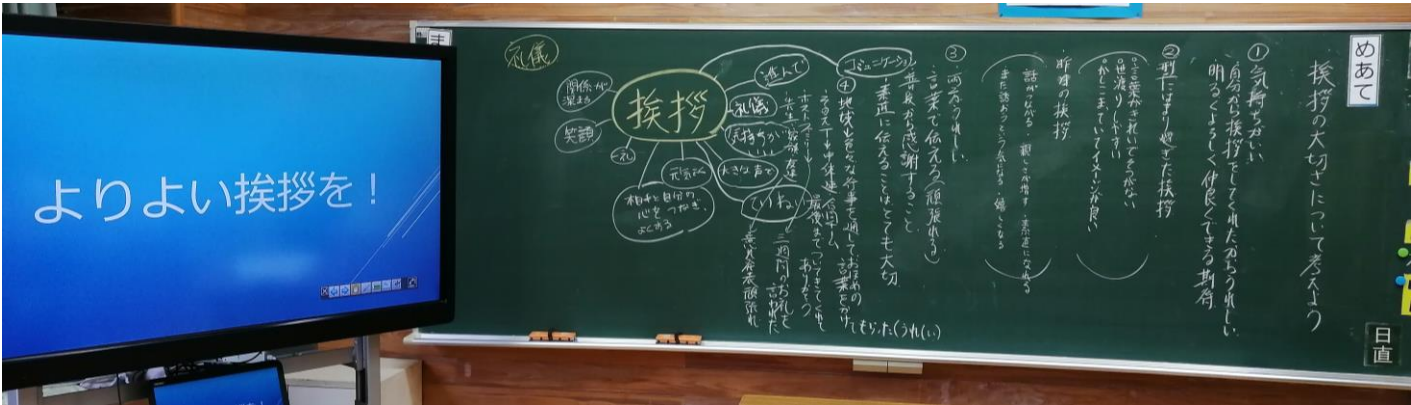
④③②①

めあて

振り返り

マインドマッピング

見本



5 事後指導

この道徳の授業を通して、生徒たちが学校だけでなく、家庭や地域でもよりよい挨拶を出来るようになる目標を持たせたい。学校での授業の前の礼儀正しい挨拶、普段すれ違う時のコミュニケーションを高める挨拶、お礼や感謝を伝える相手を尊重する挨拶については日頃から習慣化させたいと思う。

6 添付資料 ・ 本文 ・ ワークシート

7 座席配置

黒板